

こんばちは議会です

議会だより

ぱいぬしま

たけとみちょう

No. 53
2026

CHECK!!

●行政視察

2

●令和7年第4回議会(12月定例会)

3

●12月定例会 一般質問

4~15

●その他

16

いざといふ時どう動く? 長崎市・諫早市・大村市を観察!!

竹富町議会ホームページ
キャラクター



長崎市・諫早市・大村市

竹富町議会ホームページ
<http://www.town.taketomi.okinawa.jp/gikai/index/>



住民避難の受け入れ先を視察～長崎県で見えた“課題”～

11月16日から18日の間、竹富町議会では、国民保護計画に基づく住民避難の受け入れ先となっている長崎県を視察しました。台湾有事など、万が一の事態が起きた際、竹富町の住民は九州へ避難する計画になっています。「本当に受け入れは可能なのか」「要配慮者はどうなるのか」町民の皆さんに不安に感じる点を、議会として現地で確認してきました。

●長崎市（出島メッセ長崎）

一次受入施設の“規模は十分だが、課題も多い”

長崎市では、竹富町の住民（小浜、新城、西表・鳩間島）を受け入れる計画です。

出島メッセ長崎は大規模な展示ホールを備え、受付・待機・一時宿泊まで対応できる施設でした。

しかし、「車椅子利用者や寝たきりの方の移動手段」「医療・介護体制の確保」「長期滞在時の就学・就労・住居」など、町民の生活に直結する課題はまだ整理されていません。



●諫早市（諫早市中央体育館）

“動線は明確、でも要支援者の情報が不足”

諫早市は竹富島・黒島の住民を約556人受け入れる計画です。

アリーナ内は受付、宿泊、配食、救護などが機能的に配置されており、避難者の動線はよく考えられていました。

一方で、「要支援者の人数や状態が竹富町側で整理されていない」「医療・介護の受け入れ余力が限られている」など、受け入れ側も不安を抱えていることが分かりました。



●大村市（シーハット大村）

波照間島の住民が避難する予定の大村市では施設の規模やレイアウトのみを視察しました。

今後、改めて受け入れ体制の検討状況や行動計画を確認する必要があります。



●長崎県庁

“計画はあるが、実効性はこれから”

長崎県は国の要請を受け、竹富町住民約4,250名の受け入れ計画を策定しています。

輸送、宿泊、生活支援などの枠組みは整いつつありますが、「要配慮者・ペットの扱い」「医療・福祉のキャパ不足」「中長期の住居確保」「情報伝達の方法」など、具体化が必要な部分が多く残っています。



～ 視察を終えて～

“町民の命を守る計画にするために”

今回の視察で、長崎県側も受け入れに向けて努力していることが分かりました。しかし同時に、竹富町として準備すべきことが多く残されていることも明らかになりました。特に、要配慮者の名簿整備、医療・介護ニーズの把握、家族構成に応じた避難先の調整、長期避難を見据えた生活支援の検討などは、国・県・町が協力して進めていく必要があります。

議会としては、町民の命と生活を守るため、計画の実効性を高める取り組みを今後も注視し、必要な提言を行っていきます。

黒島・新城・西表 所管事務調査

総務財政委員会

黒島

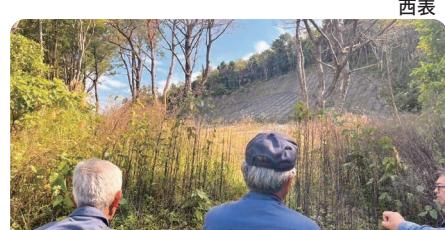


【黒島】
学校校舎
保育所
港湾施設
新城（上地、下地）ほか

調査しました!!

経済委員会

西表



【西表】
東部第1浄水場
上原第2浄水場
白浜浄水場 ほか

各報告書はこちら



12月 定例会



令和7年第4回12月定例会は、12月5日から12月12日までの8日間の会期で開かれました。前泊町長から報告1件、承認1件、諮問1件、議案14件、が提出され審議されました。慎重審議の結果、全議案について可決されました。

可原
決案

令和7年度 一般会計補正予算（第4号）関連 一部抜粋

公民館クーラー設置 3,000万円

対象は豊原、大原、古見、上原、中野、千立、祖納、新城の8公民館。電気代は通常契約で公民館負担。月6～7万円程度かかる例もある。町の備品として管理し、修理は町が対応。



災害時等非常通信環境整備 424万円

スターリングを西表東部と西部に配備。衛星電話を竹富島、黒島、小浜島、波照間、新城島、鳩間島、西表東部、西表西部、役場に計9台を導入。



高齢者見守りサービス事業 52万円

専用Wi-Fiを設置し、電波の変化から人の動きを感じ。日常の活動異常の早期検知を目指した”見守り”を実現する。通知は家族と地域包括支援センターが基本。対象は鳩間地区・船浮地区の独居の高齢者世帯で約15世帯を見込む。



竹富診療所電子カルテ導入 66万円

八重山病院と同じシステムを導入し、将来的に連携可能。国の医療情報プラットフォーム整備により、今後詳細なデータ共有も進む予定。



東部共同調理場備品費 285万円

ガス自動炊飯器、業務用冷凍冷蔵庫などの調理備品を購入。



猪防護柵整備事業 607万円

設置は農家協力で継続。維持管理は、農家および農業団体(管理組合)が広域的におこなう。



スパリ! 町政を問う!!

12月定例会

うえ せ ど
たくみ
上勢頭 巧 議員
詳しくは動画を [Check!!](#)▶



準景観地区条例の運用と開発協定

問 竹富島温泉宿泊施設計画について、準景観地区条例に基づく認定・許可の経緯を伺う。

問 教育委員会の許可決定通知書の添付が必要ではないのか。

まちづくり課長 同一計画に基づき、これまで修正や確認を重ねてきた。今回も従前からの事前協議の継続と考えている。

防災危機管理課長 消防法に基づく設備設置義務があり、大型水槽40tも活用可能と認識している。

問 町による住民説明会開催要請への対応は。

まちづくり課長 年明け早い時期に、町として説明会開催を調整している。

問 住民の不信心についての町長の見解は。

町長 指摘を踏まえ、準景観地区条例を含め制度の整合性を見直す必要がある。法令に基づく判断と島民の思いに寄り添う姿勢の両立を図り、丁寧な説明を重ねたい。

学校遊具の整備

問 学校遊具の老朽化への対応と、今後の整備計画は。

教育委員会総務課長 遊びの場の重要性は認識している。竹富小中学校は校舎改築を控えており、必要最小限の設置を検討している。事故時の責任や教職員と意見交換しながら検討を進めたい。

子育て支援拡充

問 2歳未満の保育所入所に向けた保育士確保の進捗は。

子ども未来課長 入所年齢引き下げには保育士増員が必要であり、現場や関係課と連携して検討する。今年度は町外保育士4名が制度を活用し、現在3名が従事している。

子ども未来課長 入所時期やならし保育について、現場と調整しながら検討したい。

生涯学習事業の充実

問 生涯学習振興事業の実施状況と、学級間での柔軟な活用は可能か。

教育委員会社会文化課長 申請がない学級が出た場合、他の学級へ振り替えることは可能である。今年度は成人、婦人、青年、家庭教育の各学級を予定どおり実施している。



か や も と し い ち
加屋本 真一 議員
◀詳しくは動画を Check!!

ズバリ！**町政を問う!!**
12月定例会

一般質問



波照間空港・海上交通について

滑走路延長について

まちづくり課長
次年度に行う。

問 滑走路延長は昔からの公民館要請もあり、年々人口減少が進んでいる。人口減少を止めるには子供達が帰ってきたい、魅力ある島、活力ある島にするのも住んでいる我々の責任。宿泊施設、滑走路延長は今後の波照間にとつての課題、町長はどのように考えているのか。



問 町は高齢者が増える傾向にあり、運転免許返納される方も増え、返納後の移動手段の確保が不可欠。公共交通の利用が難しい地域ではシニアカーの導入が現実的選択肢となるが補助ができるのか。

問 飛行機の整備と船のドックの時期がいっしょで、船は欠航が多くて一週間続いた日もあつた。整備の時期をずらすことができないか。

政策推進課長
9月以降の3ヶ月平均で46.9%微増傾向にある。

政策推進課長
1月から運転手を雇い運行をスタートする。

問 空港から集落、港から集落までの送迎バスは。

波照間漁港ターミナル

問 荷捌き施設の進捗は。

まちづくり課長
12月3日より新たな機材を導入して実証実験を再開している。年度内実証実験を実施しどれぐらいの量が1日処理できるのかなど、実証実験の結果次第では他のメーカーのゴミ処理設備の導入も検討する。

小浜島焼却施設

まちづくり課長
実証実験の状況は。

福社支援課長
お出かけサポートや路線バスの事業など地区が限定されるため、対象でない地区については、高齢者の移動支援を考えないと困る。他市町村の動向を参考にし、検討していく。

シニアカー補助

問 竹富町だより、議会だよりなどまとめて発送できないか。
まちづくり課長
今年度は落下防止ネットを設置し、全面改修は次年度に行う。
トイレ修繕工事は、女子トイレの便器とドアが近く体を曲げてからしか使えないトイレ修繕工事は。

区長制度・集落支援

問 竹富町だより、議会だよりなどまとめて発送できないか。

総務課長
印刷物、配布物は減らしていく方向で、デジタルでいい方などでいるので、効率的な配布がなでいく。布方がなでいく。

健康づくり課長
他にも、このような質問もしました。
● 波照間生コンブラン工場について
● 実働避難訓練について



政策推進課長
1月から運転手を雇い運行をスタートする。

問 空港から集落、港から集落までの送迎バスは。

波照間歯科診療所

問 令和6年4月から休止しているが再開はあるのか。

健康づくり課長
就業を希望する歯科院が見つかり再開に向けて調整中。

問 再開の時期は。

診療機器のメンテナンスや修繕を進めて、今年度中の再開を目指す。

健康づくり課長
他にも、このような質問もしました。

スパリ! 町政を問う!!

12月定例会

やまもり
山盛 つとむ
力議員
詳しくは動画を [Check!!](#)▶



県道白浜南風見線の維持管理

問 浦内橋仮橋は令和8年度完成と聞いているが、依然として工事の進みが遅い。町民からは「本当に完成するのか」と不安の声もある。現在の進捗と見通しを伺う。

まちづくり課長 全体延長282mのうち166mが令和7年11月末で完成しており、残り区間を工事中。県としては継続して取り組む方針と聞いています。

まちづくり課長 遅延する理由について、町として把握しているか。

まちづくり課長 県から具体的な遅延理由の説明はなく、町でも明確な原因を確認できていない。

要望 県の予算配分の少なさが影響していると聞く。町としても早期完成に向け強く要請していただきたい。

要望 センターライン消失箇所の拡張、多言語案内板など、観光再塗布、ロードパークの駐車場

客の安全につながる環境整備を強く求める。

問 サキシマスオウノキ遊歩道、実施設計が完了したと聞いてから時間がたつが、整備が進んでいるように見えない。現状を伺う。

農林水産課長 前良川は実施設計は完了しているが、予算確保が難しく施工に至っていない。令和8年度に工事を予定。仲間川は関係機関の許可が下り次第、年明け以降の着工を見込む。



西表庁舎整備

問 新庁舎整備の進捗は。

政策推進課長

基本設計作業中で令和8年3月に完了予定。その後実施設計に移る。

問 シェルターとホールの規模は。

政策推進課長 シエルターハウス（約100人収容）、ホール681m²（約400人）。災害時・平時の双方で活用可能な空間。

問 太陽光発電を導入すべきでは。

政策推進課長 導入は検討中。ただし屋上全面に載せると費用増になるため、配置・容量を含め慎重に協議中。

問 外階段・スロープ設置の考えは。

政策推進課長 安全確保の観点から設置の方向で協議している。

問 総額と補助率は。

政策推進課長 総事業費57億9491万円。国補助は約78%。うちシエルターハウスは約42.9億円。

東部第一浄水場

問 道路が大雨で荒れ、管理業務に支障が出ている。対応は。

上下水道課長

豪雨により路面が流出。応急修繕を実施しながら改善方法を検討している。

問 町新設ゲートの管理者は。

上下水道課長

現時点で把握できておらず森林管理署に確認する。

問 ヒ字溝の土砂堆積で排水不良が悪化している。改善を。

上下水道課長 関係機関と協議して対応を検討する。

高齢者支援

問 町内バス無料化は他地域でも拡大できるか。

福祉支援課長

公共交通のある地域が対象。地域ごとの特性を踏まえ支援の在り方を検討する。

問 離島割りードで通院時の船賃も無料化にできないか。

福祉支援課長

端末導入や制度調整が必要だが、事業者と協議したい。

町長の決意

問 残り任期への思いは。

町長

均衡ある発展を軸に、公約も含め施策を着実に前進させる。物価高で生活が厳しい中、町民が少しでも希望をもてる町づくりに全力で取り組む。

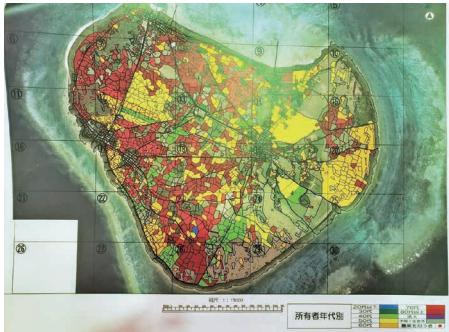
スパリ! 町政を問う!! 12月定例会

みやら みちこ
宮 良 道 子 議員
詳しくは動画を [Check!!](#)▶



一般質問

農業委員会の独立運営と未相続農地の解消



農林水産課長
農業委員会の使命は利用できる農地を利用する人に繋ぐ役割。また遊休農地発生防止や消滅の法定業務で所有者や耕作者の解役で消自体を農業委員会が行うものではない。

問 黒島の未相続の土地は賃貸で借りるが名義が違うことで整備事業ができない。黒島の年代別図から持ち主が元気で相続していない事もあるが、島外では名義人が亡くなり相続人が多く追いきられるには。

農林水産課長
農業委員会の使命は利用できる農地を利用する人に繋ぐ役割。また遊休農地発生防止や消滅の法定業務で所有者や耕作者の解役で消自体を農業委員会が行うものではない。

問 未相続農地解消するため農業委員会の独立運営を農家が求めているが。

農林水産課長

未相続は農地中間管理機構等を活用。相続人の1/2以上の同意があれば賃貸借が結ぶ。未相続所有者や売買の所有権移転に関して追つていく業務を農業委員会は行っていない。相続自体は農家所有者自らが行うもの。

問 住民避難で長崎県三市の受け入れ施設や体制等は素晴らしいが、決してこの施設を使うことが無いことが平和。その施設に竹富町機能移転会議室が設けられていた。9月議会で災害時町職員は石垣市の避難行動に基づいて避難するとあり、もし住民避難が起つた場合、石垣在住の町職員は石垣市の避難場所へとなり、町長職員はないのではと議員に對して何らかの国の政策が必要ではないかと思う。R5年12月議会で農業委員2名増やし141名でも必要であれば農業委員会の独立を検討すべきとの町長答弁があつたが。

町長

農業委員会14名の遊休地解消や農地行政を担つての十分な報告やら遊休地がすぐ解消できるものではまだ受けつてない。独立したから行政を担つてている農業委員会の職員をもう少し拡充するべきかと今思つてはいる。農業委員会独立の考えはない。

大原庁舎と住民避難について

問 将来大原が本庁舎・石垣が支所との構想はあるか。大原の政策推進課長

利便性から石垣庁舎・大原庁舎の2拠点で調整運営を図る。本庁支所構想はない。

政策推進課長
シエルターが、庁舎やホールより

問 シエルターは国補助なので庁舎の土台となる頑丈な物でもっと大きく作り、上に現設計規模で将来増築を見据えては。

路線バス系統4を経由便に!

要望 石垣路線バスは、ビジネスマンや観光客・地元学生やお年寄りと竹富町民等の利用が多く、石垣市民はほぼ自家用車。町民バスサービスを続けながら空港線系統4を市役所・八重山病院経由に変更を強く要望!

政策推進課長
シエルター建設で国から規模や制限は。

政策推進課長
国から国民保護計画に基づく避難のあり方や残つて誘導する数等も考慮し竹富町の事情を鑑みて策定。

政策推進課長
規模は避難誘導する行政関係機関と逃げ遅れた住民等を含めた数を把握して選定。

意見 近年職員との関係が希薄と町民の声を聞く。人は自分の生活を良くしたい要望や不満など行政に訴え改善されていく。その声を拾う行政の人が別の行政区に住んで町民の生活を分けるには相当無理がある。町民と職員を隔てているのは役場の位置関係。町民の生活の地で職員が共にそこに生きる事こそ私は行政と思う。

政策推進課長

隣接施設もありホールが400名で中途半端な規模。将来を見据え800人～1000人収容の町民ホールを作り有名スターのコンサートなど行い観光とタイアップしての使い方等800名～1000名規模なら、下のシエルターを大きくしても上にちょうどいい位に乗るが。

過大ではいけない等一定の縛りがある。



一般質問

問西表島の広域的な山岳救助対応に向けた「西表分団」新設など、分団再編の必要性についての見解はどうか。



さき えだ ゆう じ **崎枝裕次議員** 詳しく述べ動画を [Check!!](#)

◀詳しくは動画を [Check!!](#)



ズバリ! 町政を問う!!

12月定例会

消防・防災体制の強化と 災害インフラ対策について

問 西表島における山岳救助案件の増加と、装備・ルール整備の必要性について、現状の把握と今後の対応方針は。

問 入山時の安全対策や装備義務、夜間対応のためのドローン導入について、現状の対応と今後の検討状況はどうか。

山岳・水難事故が増加しており、資機材整備や訓練機会の創出に取り組んでいる。10月からは消防防災アドバイザーを委嘱し、専門的助言を得ながら、実効性ある消防体制の構築を進めている。

ヘルメットや懐中電灯、雨具などの装備は必要不可欠であり、個人での整備を促している。ドローンの活用についても、導入に向けて前向きに検討する。

問 災害時の断水や水質悪化に備えた井戸の活用と、避難所での簡易トイレ整備についての考え方はどうか。



問 現場での指揮命令系統の明確化や、団長・副団長の役割見直しについての考えはどうか。

分団長が団長を兼ねることも可能なと認識しており、現場での指揮体制強化に向けて調整を進めたい。団員が指揮命令系統を理解し、迅速に対応できるよう、教育機会の確保や本部との連携強化も重要と考えている。

防災危機管理課長

防災危機管理課長

品設計の場を設ける準備は進んでいるか。

中間事業者への手数料について
は、町が設定しており、増額はして
いいない。寄付額を伸ばすため
に個別訪問などで説明を行つて
いるが、日程調整が難しい事業
者もおり、今後さらに丁寧に対
応していきたい。

問 送肥料の差異が大きい中で、返礼品の割合が不透明になることへの懸念について、町としての目標はどうか。

返礼品にかかる費用は、寄付額の3割以内と定められており、送料や手数料もその中に含まれている。9月以降、制度が厳格化され、運用も厳しくなっているが、総務省の基準をクリアした上で、現在はその範囲内で運用ができると認識している。

地域経済支援制度の改善を

- 島内移動支援体制の整備
- DXによる業務改善と住民参加の仕組みづくり
- 道路・歩道の維持管理と安全確保のあり方
- 島間島の不定期航路の現状と他にも、このような質問もしました。

政策推進課長 **問** X線検査による物流の遅延が懸念される中、特に夏場の果樹の出荷に向けて、町として貨物船の朝便運行などの対応は可能か。

現在も出荷に関して、事業者と連携し物流の停滞が起きないよう調整している。パイン・マンゴーの出荷が本格化する時期に向けても準備を進めており、対応可能な範囲で調整を図つていきたいと考えている。

問 航空法改正により農産物にもX線検査が義務化される件について、町としての認識と対応状況はどうか。

政策推進課長

進課長

町内各島にある井戸の位置や活用可能性について調査を進める。必要があると認識しており、今後検討していく。簡易トイレについても、災害時に活用でける体制整備を進めていきたいと考えている。

9月以降、制度変更を受けて準備を進めている。中間事業者からも説明の機会を求める声があり、個別訪問や説明の場を設ける方向で調整している。

スパリ! 町政を問う!! 12月定例会

おおはま かずまさ
大浜 一将 議員
詳しくは動画を [Check!!](#)▶



一般質問

産業廃棄物の引き取りを町内で行える仕組みの構築を

問 島内では個人事業主が多く産業廃棄物がたくさん出る。島内で有料で引き取りをしまどめて出せる仕組みができないか。

まちづくり課長

今年度一般廃棄物処理基本計画の見直しをしている。検討委員会の中で検討していく。

つなぐ公社(仮)の設置で強力な経済循環と雇用の創出へ

問 過去3年間のコンサルタント等に支払うソフト事業の委託料はいくらか。

財政課長

計画策定業務関連が約2億1500万、施工管理等が約1億円、測量や設計業務関連が約3億5500万円。

問 町と町民との間をつなぐ歯車となる「つなぐ公社(仮)」のような組織を作り、町民が携われる業務に関しては一旦つなぐ公社(仮)が受注し、その業務に町民が携わって頂き、報告書等はつなぐ公社(仮)が町に提出する。そのような町民の力を活かす、町民にお金が回る仕組み作りを一緒に検討していくいか。

政策推進課長
竹富町中小企業等振興基本条例も制定されたので商工会、観光協会、物産公社等と検討していきたい。

海滨での野営や自然公園法について

問 野営やキャンプの体験を実質島民が制限されている状況の改善を野営WGの皆様も町民も一緒になつて取り組んでいけないか。

自然観光課長

野営やキャンプの体験を実質どのようにできるのか、一緒になつて検討していく。

問 自然体験をするなら天候もとても大事。学校を休んでも休日扱いにならないラーニング・制度の導入をできないか。

教育委員会教育課長

保護者へのアンケートでは9割が賛成している。令和8年4月導入に向けて取り組んでいく。

問 島の浄化槽を合併浄化槽にするにはどれくらい予算が必要か。

まちづくり課長

西表島の世帯1422世帯の50%が合併浄化槽に移行すると仮定し、その費用の半分を町が持つならば町の持ち出し分は2億6800万円ほどかかる。

世界自然遺産の水の販売

上下水道課長

竹富町も今後は値上げをしなくてはいけない状況にある。

問 今後の水道料金はどうなつていいのか。

上下水道課長

世界自然遺産の水にはブランド力があると思う。水がブランド化されれば宿泊業にも飲食業にも小売業にもMMOの取り組みにもふるさと納税の返礼品としてもプラスになる。町外に販売していくならパレットに載せての出荷になるため、パレットの問題の解決にも繋がる。

島では車はとても重要なインフラだが整備土が足りてない。保育士や船員の誘致事業のように移住支援金を出せないか。また、整備工場と一緒に誘致活動もしていただきたい。

政策推進課長
移住支援金について検討してみたい。誘致活動も移住相談会等あるので積極的に活用していただきたい。

修理工の移住支援



問 合併浄化槽の設置には町も町民も多額のお金が必要となる。海に影響を与えるにくい石鹼や洗剤の導入を商工会等とともに一緒に考えていく。

自然観光課長

海への環境負荷の低減は非常に重要。サンゴに優しい事業を當石鹼や洗剤等の使用が認証項目を図り陸域からの環境負荷の低減に取り組んでいきたい。

要望 水道事業で安定化ということは町民の水道料金を上げるしかない。事業が得意な町民もいるので、一緒になつて取り組んでいいってほしい。

上下水道課長

今はブランド化は考えていない。まずは水道事業の安定化を目指していく。



地震・津波災害への備え

問 近年、各地で大規模地震や津波が発生している。自治体の公表が義務付けられている、本町における避難所や緊急避難場所に整備状況、収容人数、物資備蓄の現状と今後の計画は。

防災危機管理課長

津波避難場所は、各地区の体育馆や高台などを指定している。避難路については、老朽化や整備箇所もあるため、各公民館未と調整しながら補修・整備を進めている。避難場所には屋上や建物の除けがないう施設もあることから、備蓄食料や資機材の充実を段階的に図っていく。観光防災事業を活用し、町内7地区に備蓄倉庫と物資を整備しており、今後も計画的な充実を進めていく。

問 「南三陸モデル」について、東日本大震災の教訓を生かすため、宮城県南三陸町との防災連携協定や職員・消防団員の派遣交換を検討できないか。

防災危機管理課長

南三陸町の復興や防災の取り組みから学ぶことは多く、防災意識の向上につながると認識している。今後、機会を捉えながら、竹富町の防災行政に生かせる交流の在り方について検討している。

問 消防団員の安全確保は重要な課題であり、二次災害防止の観

消防団員の服務と安全対策について



停電対策と電力会社との連携について

点からも安全教育の必要性を認識している。今年度は、消防訓練による活動内容や役割分担を明確にするため、消防団活動マニュアルの作成についても検討していく。

問 町内で停電が頻発し、観光産業への影響と電化製品の故障など生活にも深刻な被害や負担を与えている。医療や通信への影響を踏まえ、沖縄電力との連携強化が必要ではないか。

総務課長

町としても沖縄電力から停電状況や原因について説明を受けている。短時間停電を含め、町内でも頻発している状況は把握しており、今後も防災危機管理課とも連携しながら、情報共有や意見交換を継続していく。

問 診療所の無い島や病院のない離島において、さまざまなおや負担がある。石垣市内の女性クリニックも閉院し、八重山女性病院は遠く、そして非常に混雑

オンライン診療について

教育委員会社会文化課長

問 島言葉は地域ごとに異なり、話者の高齢化により消滅の危機にある。島言葉発表会の継続と記録化を進めるとともに、古語大会についても開催方法の見直しを検討していく。漫画やアニメなどのデジタルコンテンツを活用した新たな手法についても、若い世代への浸透を図る観点から検討していきたい。

方言・古語の伝承

問 担い手不足が進む中、方言大会や古語大会の在り方を見直し、若い世代に向けた漫画やアニメの活用など、新たな継承方法を検討できないか。

している。町内のオンライン診療の利用状況と今後の活用方針は。



みつ もり かつ み
三盛 克美 議員

◀詳しくは動画を Check!!

ズバリ！**町政を問う!!**
12月定例会

介護認定調査について

問 制度上は多角的に判断されている一方で、日常的に関わる立場ごとにみえている本人像が異なることが、認定結果への違和感に繋がっているのではないかと感じる。こうした認識のズレを踏まえ、本人の日常の状態をより適切に反映するために町としてどのような運用上の工夫や改善を考えているのか伺う。

福祉支援課長

現在、認定調査は専任の調査員1名体制で行つていて、兼任ではあるが2名体制にして充実を測つて行く考え。また、認定結果のズレを防ぐため、現場関係者との話し合いの場を積極的に設け、認識の共有に努めていく。

鳩間↔上原間の臨時船運航の開始について

問 鳩間↔上原間の臨時船運航が開始により、島民から感謝の声があが寄せられている。一方、上原港に於ける一般乗船者の利用手段がないなどの課題があつて、空席時の柔軟な運用を見直す。町の見解を問う。

政策推進課長

利用制限については、地元から島民優先での運航を求める声があつたことを踏まえての対応で、ある。運航開始後に見えてきた課題については、整理した上で今後の運航に生かしていきたい。

特定自然観光資源の立ち入り承認制度の運用改善を！

問 特定観光資源の運用が今年の3月から開始されている。立ち入り承認事務手数料については条例において還付出来るとなつていて、どのような場合に還付出来るのか伺う。

自然観光課長

立ち入り承認事務手数料は、1週間前までは全額還付、それ以降は割合に応じて還付する。交通の途絶や天災等、申請者の責任によらない場合は、個別具体的に判断し還付する。

移動弱者対策について

指定ゴミ袋（極小サイズ）導入の進捗は？

問 黒島地区で始まつた公共ライドシェア実証の利用状況を確認するとともに、免許返納後の高齢者に限らず、子育て世帯や通院買い物など日常移動に困る住民の声を踏まえ、西表島で誰でも利用できる公共ライドシェア導入の可能性について町の見解を問う。

政策推進課長

まずは黒島での取り組みから課題を整理し、その結果を踏まえ西表島への展開も検討する。一方で民業圧迫に配慮し、電動三輪車レンタルなど既存の事業や資源の活用も含め、多角的に検討していく。

古見小学校跡地活用について

問 看護師や介護職、保育士、整土など島を支える専門職不足の背景に住宅確保の課題がある。国補助制度を活用した校舎等の改修による専門職向け住宅整備の可能性について、町の見解を問う。

教育委員会総務課長

古見小学校跡地は、古見、美原地区の活性化につながる活用が望ましいと考えている。提案のあつた専門職向け住宅について、検討委員会で共有し、今後検討していく。

訪問税の進捗は

問 要望してきた極小サイズ導入の進捗はどうか。あわせて、今までゴミ袋として使用後そのままゴミ袋や、世界自然遺産型指定ゴミ袋や、世界自然遺産の島を訪れる観光客向けゴミ袋を導入し、観光と環境保全が両立する仕組みづくりを進め考えはあるか。

まちづくり課長

極小サイズのゴミ袋は今年度内の作成を検討しており、現在は見積りの段階である。作成後は実証を行い、価格等を精査し導入を進める。レジ袋型ゴミ袋についても今後検討する。

訪問税の進捗は

問 訪問税の導入について、国への申請状況及び船会社との協議の進捗について現状を伺う。

訪問税準備室長

8月29日に協議書を提出し、現在は総務大臣の同意を待つていて、システム構築の検討を進めており、船会社とは合意に至つてないため町主導で開始し、協力を求めていく。

ズバリ! 町政を問う!! 12月定例会

だい く けん いち
大久研一議員
詳しくは動画を [Check!!](#)▶



一般質問

燃料調整金(サーチャージ) 町民負担ゼロへ

問 開会中の県議会補正予算に竹富町民船賃軽減事業費1億2百万円が計上されている。内容は。

政策推進課長

令和8年1月から12月までの1年間2段階分。

問 現行制度では、県・町ともに毎年予算を確保できるか不透明であります。町民が安心して暮らせる年制度とはいえない。燃料サーチャージ分の国庫補助など国が、町民の船賃負担軽減に向けた恒久的制度を構築する必要がある。町長の見解を伺う。

町長

要望 離島に暮らす竹富町民にとって船賃負担軽減は暮らしを守るうえで欠かせない課題である。国、県と連携しながら町民が安心して暮らせる制度の実現に向けて取り組んでいたくことを強く求める。

小浜島における 資源循環型農業

問 小浜島では、牛糞処理、バガスの有効活用、ハーベスター、ラツシユの処理の課題がある。個別に捉えるのではなく、小浜島の資源循環をどう構築していくかという観点で総合的な取り組みが必要。牛糞の堆肥化施設整備計画が進んでいるが、管理運営は中山間集落協定が行うのか。これまでの検討経過を伺う。

政策推進課長

問 共同堆肥舎整備後は、中山間集落協定が管理運営を行う。現在は用地選定の調整中。バガス、トラックシユについては、製糖工場と今後協議する。

農林水産課長

問 堆肥施設整備には、国の「畜産環境整備事業」「耕畜連携事業」等、補助事業があるが正式に調査検討しているか。

農林水産課長

要望 小浜島の農業を次世代に繋いでいくためには、牛糞処理、バガス・トラックシユの活用、圃場の地力向上、環境対策これらを一つながらの問題と捉え、島全体で資源を循環させる仕組みが必須。畜産農家、中山間集落協定、製糖工場、関係機関としっかりと調整して前へ進めていただきたい。

伝統行事の継承支援

問 伝統行事は地域の誇りであり地域の絆を結ぶ大切な文化である。そして祭祀行事を守りたいとの強い思いで若い世代のUターンも増えている。しかし、どの地域でも行事を執り行うには郷友会の協力が不可欠。島外からの参加には渡航費の負担が大きな課題となっている。渡航費を含めた支援ができるいか。

問 訪問税導入も含めてしっかりと考えたい。

町長

問 「ふるさと住民登録制度」を用いて地域との関わりを制度として明確化することで支援できる。制度導入に取り組むべき。

町長

問 伝統行事には、役場職員の参加も地域を支える大きな力となっている。職員の参加を公的に位置付けるためにも「伝統行事参加特別休暇」の制度化ができないか所見を伺う。

農林水産課長

問 「ふるさと住民登録制度」を用いて地域との関わりを制度として明確化することで支援できる。制度導入に取り組むべき。

町長

要望 伝統行事を将来へ継承していくためには、職員の育成の観点から前向きに検討する。

参加の環境整備はいざれも重要な取り組みである。地域の誇りを次世代へ繋いでいくためにも町として前向きな議論を望む。

町有地嘉弥真島の 町民利活用

問 現状と町内に経済効果があるか。

総務課長

要望 嘉弥真島は、小浜島にとつて大きな可能性を持つ島。過去の経緯を丁寧に整理しながら、地元の思いを踏まえて未来につながる利活用を進めていたくことを期待する。

他にも、このよくな質問もしました。

- 農業・観光人材確保
- 特定地域づくり協同組合
- さとうきび機械化一貫体制
- 町有貨物船つむぎ
- 農業委員会



一般質問

小浜民俗資料館 について

うえ もり まさ ひで **上盛政秀議員** ◀詳しくは動画を **Check!!**

ズバリ！町政を問う!!

12月定例会

問 2回とも参加がなかつた理由をどのように分析しているか。

教育委員会社会文化課長

1回目辞退の理由として、各社から「人員不足・技術者不足」と回答を得ており、これが主な理由と考えている。

問 町内外で工事の辞退や不調が多く、物価高などの影響もあると感じる。今年度中に工事着工が見えるよう期待している。次に、資料館内部の展示物はどうなつているか。

1度目の入札は指名競争入札で行つたが、すべての業者が辞退。2度目は一般競争入札で行つたが、応札がなく不調となつた。現在は、随意契約が可能な業者と調整しているところ。

問 前回、最初の入札が不調に終わり、その後2回目を予定しているとの答弁があつた。しかし現時点での工事着工が見えない。これまでの経緯と進捗状況を伺う。

教育委員会社会文化課長
現段階では駐車場整備には着手していない。開館後の入場者数の状況を見ながら検討したいと考えている。

要望 前に空き地があるので、すぐ取り組める課題だと思う。早めの対応をお願いする。

問 立地条件だが、自転車やバイクを停める場所がなく、団体客は道路にはみ出して危険。駐車場整備は検討しているか。

要望 移動の過程で整理作業を進めれば、開館時にスムーズに展示できると思う。データベース化は済んでいるとのことなので、早めに進めてほしい。

まだ移動はされていないのか。工事は工事として進めるとても、展示物の整理や説明文の作成は先に進めた方がよいと思うが、予定はあるか。

教育委員会社会文化課長
工事期間中は、小浜織物共同作業場の建物内に保管していただ
く予定。

小浜公園整備事業 について

A wide, open, grassy field with concrete steps in the foreground and a building with a red roof in the background under a blue sky with white clouds.

A wide, open, green grassy field with a dense line of trees in the background under a blue sky with white clouds.

小浜公園整備事業は、次年度の一括交付金事業として計上し、採択待ちの状況。現在、整備予定地の土地所有者や相続人(8名)の整理を行つてゐる。

要望 ユニック車はサトウキビ運搬のほうに回っていく、その時期に併せて運送会社のユニック車を使うとなると、またそれなりに生産者の負担が増えていくことになると思う。ぜひ別メニューでのユニック車の導入をお願いしたい。

問　当初、ユニット車も入つていたと思うが。

農林水産課長　ユニット車も要望として挙がっていたが、汎用性が高いため、この事業では対象外となつた。今後別途検討する。

ビレットプランターを含む機械導入は、11月に採択され、今年度中の導入予定。ビレットプランターのほか、トルクター（98馬力）、中耕口一タリー、ハイパー一口タリーなどを導入予定。

さとうきび生産事業について



★出前講座を実施しました★

12月3日、竹富中学校3年生のみなさんが議場を訪れ、町議会出前講座を開催しました。

講師役の上勢頭議員は竹富町の年間予算や議会の役割をクイズ形式で紹介し、竹富町は年間100億円、1人あたり200万円以上の予算を使っていることを伝えると、その規模に生徒はとても驚いていました。

また、三盛議員が「竹富町で初めての女性議員として当選したとき」の話に、特に女子生徒が強く関心を持っていました。

生徒のみなさんからは、訪問税の使い道新しいゴミ処理施設の運用開始時期若い世代の投票率を上げる方法など、たくさんの質問と意見をいただき、議員自身も学びの多い時間になりました。

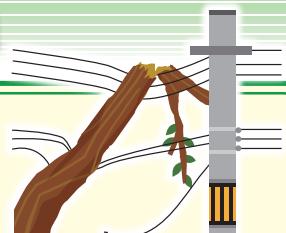
政治は教科書で学ぶだけでなく、実際に触れることで身近に感じられるものです。今回の講座を通して、少しでも政治を「自分ごと」として考えるきっかけになってくれたら嬉しいです。

広報編集委員会としても、議会だよりの発行だけでなく、若い世代が政治に関心を持てる取り組みをこれからも続けていきたいと思います。

「議会のことをもっと知りたい」「地域の課題を議員に直接聞いてみたい」など、そんなときは、ぜひ出前講座をご活用ください。出前講座のお申込み・問い合わせは→竹富町議会事務局(Tel: 0980-82-3748)までお気軽にどうぞ!



電力供給の安定化に向けた議会決議



近年、町内では台風・落雷・鳥獣や樹木の接触などによる停電が相次ぎ、特に西表島西部地域では数分から数時間に及ぶ停電が繰り返され、生活・医療・観光・産業に大きな影響が生じています。町には「日常生活の危機」「医療への不安」など切実な声が寄せられており、議会としても深刻な課題と受け止めています。

こうした状況を踏まえ、竹富町議会は12月定例会において、電力供給の安定化と地域連携の強化を求める決議を行いました。決議では、停電頻発の原因究明と情報公開、設備更新や地中化の検討、共同パトロールの実施、緊急時対応体制の強化、非常用電源の支援策検討、景観に配慮した電線配置改善、人材育成や地元業者との連携強化など、具体的な改善策を電力事業者に求めています。

町民の皆さまが安心して暮らせる電力供給体制の実現に向け、議会として今後も行政・電力事業者と連携し、改善状況を継続的に確認してまいります。

議長宛の文書は議会事務局へ

議長あての文書や案内状は、議長の公務日程を調整する必要がありますので、議会事務局へお届けお願いします。

広報編集委員会

委員長 上勢頭巧
副委員長 大浜一将

E-mail: gikai@town.taketomi.okinawa.jp

議会を傍聴しませんか？

傍聴受付に、複雑な手続きはありません。
詳しくは「竹富町議会事務局」
☎ 82-3748